

- 催事名 : 「第21回どうしん☆スポーツサロン」『eスポーツ×障がい者 障がいがあっても楽しめる工夫』
- 会場 : 北海道新聞社 1階 DO-BOX
- 日時 : 2019年5月24日(金)18:00~20:30
- 主催 : 北海道ハイテクノロジー専門学校 ■ 協力 : 北海道eスポーツ協会

**講師：国立病院機構八雲病院 作業療法士 田中栄一さん、入院患者でeスポーツリーダー 吉成健太郎さん**



#### ■ 作業療法士 田中栄一さんの講演

田中さんは手の動きが不自由な障がい者が弱い力で操作できるコントローラーの工夫や、視線の動きでゲームができる特殊な装置を開発して入院患者を支援しています。入院患者の吉成健太郎さんは、オンライン上で健常者とeスポーツで交流し、院内で同じ障がいのある仲間がeスポーツに取り組みやすくなる活動を始めています。田中さんには障がい者がeスポーツに取り組む上での効果と課題について語っていただきました。

#### ■ 吉成さんと会場の健常者がぷよぷよで対戦

八雲病院の吉成健太郎さんと、会場の参加者（作業療法士の卵）スカイプを使ってオンラインで対戦しました。ぷよぷよはスクリーンで戦況を把握しやすいため、会場は一進一退の展開に大いに沸きました。結果は2勝1敗で吉成さんの勝利に！対戦後、吉成さんは「こうやって病院にいても外部の健常者と対戦できるのがeスポーツの最大の魅力です。私はeスポーツに救われました」と話しました。

#### ● 振り返り

・「パラスポーツを応援する」目的で20回を重ねてきたどうしん☆スポーツサロンでeスポーツを取り上げて、eスポーツがダイバーシティとインクルーシブの別の側面を持つことを紹介することができた。作業療法士としては類まれな田中さんの地道な努力に参加者が目を見開いていた。筋ジストロフィーの患者は動かせる身体の部位とがそれぞれ違う。・「ぷよぷよ」はシンプルで分かりやすいゲームの為、ゲームをプレイしたことのない人にも展開が分かりやすく、会場の盛り上がりにも貢献した。・Skypeを使って会場外と映像、音で繋ぐ運営は、今後も活用できると感じた。